

JICA 中国事務所ニュースレター

2020 年度 第 1 号

独立行政法人国際協力機構 中華人民共和国事務所
郵便番号 100004 北京市朝陽区東三環北路 5 号北京發展大廈 400 室
電話: +86-10-6590-9250 FAX: +86-10-6590-9260
Email: jicacn-pr@jica.go.jp

★JICA ウェブサイト(中国): <https://www.jica.go.jp/china/index.html>
★JICA 中国事務所ミニブログ(微博): <http://weibo.com/u/3248071500>
★ボランティア活動(人民網):
<http://j.people.com.cn/94473/415349/index.html>

内 容

対中「日中高齢化対策戦略技術プロジェクト」は 2020 年 5 月 19 日をもって正式に終了	2
「生活の百科事典」とも呼ばれる民法典が制定されました	4
新型コロナに関する国際ウェブ会議	4
「重症感染症などのアウトブレイク対応強化のための実地疫学」訪日研修感想	5
円借款「安徽省地方都市水環境整備事業」事後評価	9
円借款「新疆ウイグル自治区地方都市環境整備事業 (I)、(II)」が事後評価で A 賞表彰	10
「加油！学日語的同学」一時帰国中協力隊員が日本語学習者応援記事を発信 .	11
互いに見守り助け合い、共に困難を乗り越えよう	
—JICA 長期研修員同窓会が日本医療従事者にマスクを寄贈.....	12
青年研修参加者有志から届けられたマスク	14
中国計画生育協会が高知県へマスクなどを寄贈	14
【本の紹介】 現地取材！世界の暮らし③中国	15

ニュースレターに関するお問い合わせはこちらまで
Email: jicacn-pr@jica.go.jp
皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

対中「日中高齢化対策戦略技術プロジェクト」は 2020 年 5 月 19 日をもって正式に終了

高齢化は日中両国に共通する社会の重要課題であり、日本は早くも 1970 年に高齢化社会に突入し、その後、高齢者人口は年々増加を続けてきました。ほぼ 30 年後の 1999 年、中国も高齢化社会に入り、近年急速に高齢化が進展し、高齢者福祉介護サービスの質と量の両面に渡る整備が喫緊な課題となっています。日本が歩んできた高齢化に対応する道のり、失敗も成功も中国にとって有益な参考となりますし、日本の長年培った介護技術力と数多くの介護用品も中国の高齢者福祉事業に貢献できると考えます。

上記の状況を踏まえ、JICA は 2016 年 5 月に「日中高齢化対策戦略技術プロジェクト」をスタートさせました。カウンターパート機関である国家民政部のほか、北京市、江蘇省、浙江省、陝西省の合計 10 カ所の職業学校や高齢者介護施設がプロジェクトサイトとして指定されました。その後の 4 年間、JICA は日本の行政機関や民間企業、大学などと協力して、日本の「高齢者福祉政策」、「行政の取り組み」、「介護施設」「介護人材の育成（特に認知症ケア、高齢者の自立支援）」という切り口から、国内研修や訪日研修、政策交流会などを実施し、日本の経験とノウハウを中国側に紹介しました。また、日本の介護福祉用品や介護関連書籍、及び中国語に翻訳した多くの日本の政策・技術関連の資料集なども中国側に供与しました。

下記プロジェクトホームページにアクセスいただければ、活動内容の詳細や各種参考資料はいつでもご覧いただけます。

<https://www.jica.go.jp/project/china/015/index.html> 日本語

<https://www.jica.go.jp/project/chinese/china/015/index.html> 中国語

本プロジェクトは 2020 年 5 月 19 日をもって終了しましたが、これまでの成果をさらに発展させるべく、引き続き JICA は関係機関と協力し合い、日中両国の高齢者福祉向上のために取り組んでいきます。

丁莉

民政部で日本政府の高齢化対策
を紹介





現地国内研修で身体力学を活用した介護技術を
紹介



現地国内研修で認知症予防の体操を紹介



現地国内研修で日本の介護関連書籍を紹介



訪日研修で日本の高齢者介護施設を訪問



訪日研修で日本の介護福祉士資格研修のミニ
講座を受講



訪日研修で日本の介護用品を試着

「生活の百科事典」とも呼ばれる民法典が制定されました

2020 年 5 月に開催された第 13 期全国人民代表大会（全人代）第 3 回会議で、「市場経済の健全な発展と民生の保障のための法制度整備プロジェクト」が策定支援を行ってきた民法典が審議を通過しました。当該プロジェクトは、2016 年度より、民法典を対象法令のひとつとし、長期専門家や本邦研修・現地セミナーを通じた協力を実施してきました。民法典の制定は、プロジェクトとしてひとつの大きな節目を迎えたともいえます。



新型コロナウイルス感染症流行下の現在、遠隔でのプロジェクト活動実施について検討を進めているところです。

細貝瑞季

新型コロナに関する国際ウェブ会議

2020 年 5 月 30 日、中華予防医学会が主催する“International Webinar on Global Science and Technology Development and Governance under the COVID-19 Epidemic”が開催されました。中国の著名な専門家以外にも、WHO などの国際機関やアフリカ、日本、シンガポール、ブラジルなどから 20 名近い専門家が参加し、それぞれの地域の現状やアイデアなどが紹介されました。JICA からは本部の国際協力専門員である磯野光夫専門員が参加し、特に今後の国際協力のあり方に焦点をあて意見を述べられました。

会議全体を通して、新型コロナウイルスの脅威を前に、国際協力のために各国が一層団結しウイルスに立ち向かうことの重要性が強調されました。また、薬やワクチンの開発における協力、プラットフォームを構築し必要な情報と技術を共有していくこと、必要な人に必要なサービスが届けられるようなメカニズムの構築などが提案として挙げられました。

世界中から感染症がなくなることはなく、私たちは常に予防と対策を同時に進めなくてはなりません。政府や医療関係機関には正確な情報の提供、迅速な医療対策、透明性かつ公正な対応が求められますが、私たち一人ひとりも正確な知識と判断力を持つことが重要であることを今回の新型コロナの経験を通じて感じています。

内山智尋

◆以下では、JICA 課題別研修制度を利用して訪日研修に参加した研修員の感想を紹介します。

「重症感染症などのアウトブレイク対応強化のための実地疫学」訪日研修感想

濱州医学院附属病院 PICU 李曉梅

日本で 1 ヶ月にわたる JICA 研修に参加して、2019 年 12 月 15 日に無事に終了しました。研修のテーマは、「管理者向けの、重症感染症などのアウトブレイク対応強化のための実



カントリーレポートの発表

地疫学 (Field Epidemiology to strengthen the preparedness for the severe infectious disease outbreaks(for managers))です。帰国後、煩雑な日常業務と新型コロナ肺炎の発生に伴う諸対応に追われる毎日でしたが、突然起きた今回の危機を通じて、国民は一丸となって感染症に向き合うことの重要性を改めて認識し、同時に、感染症に対する理解を深め、私自身も日本で学んだことを振り返るきっかけになりました。

た。

研修の収穫は主に以下の二つと考えます。1.重症感染症に関する認識をさらに深めることができたこと；2.日本の文化や感染症対策に対する理解を深めることができたこと。

感染症の実地調査と言えば、日本に行く前では、私は疾病コントロールセンター (CDC) の職員が、我々病院が出した感染報告を受け取った後に、臨床診療室に駆けつけ感染状況の個別調査表を記入する状況を思い浮かべるぐらいでした。しかし、今回の研修は、あらゆる角度から見た感染症マネジメントがプログラムに組み込まれており、感染症の実地調査に関して包括的に理解することができました。日本の感染症モニタリングシステムや抗生物質の耐性評価システムに関しても初歩的な理解ができました。また、バイタルに基づく観測、事案に基づく観測、拠点で実施する観測に関してある程度理解することができました。さらに、災害発生後の感染症の大流行及びコントロールに関する理念を新たにしました。研修の実施方法は、座学形式の授業とグループディスカッション、発表、各種検疫所、研究所での見学など多様なものでした。講義を担当して下さる講師や教授の中に、国際緊急救援に参加したことのある豊富な知識と実践経験をお持ちの方が多数いらっしゃり、感染症のリスクアセスメント、マスクミへの情報発信、WHO との連携や国際救援実施中のチームワークの取り方など、様々な面

において、事例を挙げながら教えてください、またそれに関してみんなで議論を行いました。感染症現場調査表内容の考案や、統計学に基づく分析、及び災害救援などの内容にも触れました。

日本国立感染症研究所（NIID）で約 1 週間の研修が行われ、その間に研究所の中にある各バイオセーフティーレベル（BLS-1.2.3）の実験室（BLS-4 を除いて）を見学し、ハイレ



国立感染症研究所にて一週間にわたる研修

ベルの病原学実験研究を近くで見ることができました。また、日本の川崎市の防疫、検疫担当職員が現在取り組み中の毒物、放射性元素、蚊や虫、環境に対するモニタリング（監視測定）作業を見たり、一世紀以上前の横浜検疫所と実験室を見学したりして、日本の感染症対策の歴史を学びました。日本国際緊急援助隊（JDR）の感染症対策チームのスタッフ

は所轄の国際緊急救援業務を紹介してくれました。熊本病院出身のチームリーダーを務める方は、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）分野における研究や、管理ツールの SWOT、TOWS などを紹介し、内部の優位性、劣位性や外部のチャンスと脅威などを分析する方法について教えてくださいました。国立感染症研究所での研修中には、消防訓練を実施するためのビル内アラームとアナウンスを直接聞くことができました。

座学の研修が始まり、最初の授業は日本第一線の小児科臨床医の教授による、世界中の感染症発生状況に関する紹介でした。その講義から私は、“感染症は、グローバルの疾病であり、特にパンデミックが発生した場合、グローバルな連携が必要だ”という理念を学びました。臨床医師の一人として、私の感染症に対する認識が狭いということに気づかされました。感染源の除去、感染経路の遮断、かかりやすい体質の人を感染症から守ることなど基礎的な知識はあるものの、日常の業務のなかではつい患者に対する診療に集中してしまいます。しかし、疫学は一体的、総括的なマネジメントです。私たちは、ハンタウイルス感染症、ニパウイルス感染症、黄熱病などの病気は自分とは無関係だと考えがちで、中東呼吸器症候群やエボラウイルス病など凶暴な感染症が流行する時でさえも、自分とは遠く離れているように感じていました。しかしながら、新型コロナウイルスの発生で、感染症はグローバルの課題だと認識させられました。最近、米国胸部学会が中国の同業者に出した手紙にはこう書いてます、“君たちは中国人民のためだけではなく、全人類を守るために戦っているんだ”、と。

感染症対策は、現代医学の重要な成果の一つとも言え、非常に重要な取り組みです。ワクチンの使用というのは、免疫力の低い人を守り、疾病発生率を低下させることによって、感染経路を遮断する取り組みです。人類はワクチン接種の力で天然痘を撲滅しました。――いまは簡単そうに言いますが、実はこれは壮絶な戦いでした。人類の感染症防止の歴史を振り返ることを通して、ワクチン接種に対する認識を強化し、日本と我が国のワクチン接種の類似点や相違点を理解し、またアフリカの研



講義してくれた先生たちと

修員たちから、アフリカ諸国におけるワクチンの使い方と感染症の予防・コントロール状況を聞きました。

今回の研修では人口高齢化にも焦点が当てられました。現在、日本が最も深刻ですが、中国もそれに次ぐ状況です。また、高齢化に伴った感染症対策は新しい課題です。

人口の高齢化が原因なのか分かりませんが、日本のインフラ施設はきめ細かく整備されています。人気の高い機能万全の洗浄便座はもちろんのこと、各トイレに緊急ボタンが設置されていることに気づきました。同じ部屋のなかでも高い場所と低い場所にそれぞれ緊急ボタンが設置され、転んだ人でも使えるように配慮しています。さらに驚いたのは、空港行きのリムジンバスの中にトイレがあり、これは恐らく高齢者に配慮した取り組みだと思います。小児重症臨床医として、私は日本の自動体外式除細動器（AED）の普及率の高さは前から知っていましたが、実際日本に来てやはりびっくりしました。空港、駅、ホテル、オフィスビルなど各公共施設以外にバスの中でも AED を見かけました。運転手さんに尋ねましたら、彼らはみんな訓練を受けており AED を使用できるそうです。

日本の職人気質やゴミの分別などについては昔から知っていましたが、JICA 東京国際センターに到着してから、やはり日本人職員のまじめで丁寧な仕事ぶりに感動しました。中国を出発する前に JICA の研修手帳はすでに手にしており、JICA 国際センターの生活環境に関する詳しい紹介があり、またそこに紹介されていた“エコノミー症候群”について初めて知りました。そこまできめ細かく作業して下さったことに感銘を受けました。とはいえ、日本を訪れるのは初めてなので、言葉が通じず、気分は少々不安でしたが、空港を出た瞬間に JICA の旗を持っている出

迎えのスタッフを見かけ、不安が喜びに変わりました。確認作業が終わると、歩きながら注意事項について説明を受け、さらに詳細に書いた説明用紙を手渡されて、空港バスに乗せてもらいました。。その後、駅に到着し、別の出迎えのスタッフが待っており、JICA 東京（TIC）に案内してくれました。そして、TIC の職員は中国語の生活における注意事項などを紹介したビデオを見せてくれ、その後素早く宿泊を手配してくれました。緊張と不安は一気に飛んでしまいました。二日目には、プログラムオリエンテーションを開催してくれました。多くのスケジュール表や注意事項が紙で配られた上に、より詳細な説明を受けました。うまく聞き取れない、覚えきれない人のために資料を読めば分かるように準備いただき、これからの勉強や生活に大変ありがたいと感じました。至れり尽くせりの食事や宿の手配、週末の東京観光バスツアーのアレンジなど、どれも安心感と充実感を与えてくれました。そして研修が始まり、研修資料を閉じたルーズリーフ式のファイルを受け取り、研修を重ねるうちに、資料集がどんどん厚くなり、私たちの収穫も増え続けました。研修を支えてくれたすべての方たちのご尽力のおかげで、私は多くの知識を習得することができ、また日本人のきめ細やかな仕事ぶりも感じることができました。

日本に着いたばかりの時、日本の森林被覆率は 70%に達していると聞きました。東京で過ごす最初の 3 週間は特にそれに関する実感はありませんでしたが、最後の週に、東京から熊本を経て天草に移動し、移動中の道路両側にそびえる青々とした山山を見て納得いたしました。そして、小児科の医者として大変嬉しく感じたことは、研修中に会った講師の中に現役或いは過去に勤務経験のある小児科の医師が 7 人もいたことです。“なぜ日本の感染症従事者に小児科の医師がこんなに多いの？”とアフリカの研修員が思わず質問したほどの人数です。それから、研修を受けるうちに、日本人の人に対する礼儀——深いお辞儀にも深く心を打たれました。私たちクラス 11 人が、訪問する先々で受ける友情と礼を尽くしたおもてなしにも感動しました。11 人の中で唯一のア

ジア人の私は言葉に自信がなくてストレスを感じていましたが、日本の街を歩いていると、至る所で漢字が見られ、私は意味が理解できますので、アフリカのクラスメートたちと比べると、不自由を感じずに快適に生活を送れたと思います。特に、日本の庶民的な食べ物



研修を共にうけた仲間たちと

物の“ラーメン”という言葉の発音は、我が国の標準語と全く同じで、思わず日本と中国の文化の繋がりを感

じました。

新型コロナ肺炎発生以来、私は日本の政府や民間の人たちから支援を頂くたびに深く感動して、「国土は離れていますが、大空の風や月に国境はありません」、「真の友人どうしは、困窮のときには袍を貸し合って助け合うものです」など救援物資に添えられた応援メッセージを読むたびに涙が出ました。一衣帯水の隣国である中国と日本は、2000 年前から始まった交流を大事にし、これからもずっと仲良くしていくことを心から願っております。

円借款「安徽省地方都市水環境整備事業」事後評価

2019 年 12 月下旬、国際協力機構（JICA）中国事務所中里(当時)所長が安徽省蚌埠市を訪問し、2018 年度事業評価最終結果 A を受賞した「安徽省地方都市水環境整備事業」（借款契約額：84 億円、実施期間：2008-2016 年）に表彰状を授与し、サブサイトの運営状況等の確認を行いました。

2007 年当時、蚌埠市がある淮河流域では、経済の急速な発展による下水量の増大に下水処理能力が追いつかず、淮河の水質汚濁を一層深刻化させる恐れがありました。また、同市では上水普及率が低く、水質の悪い地下水が多く利用されており、さらなる経済発展に伴う給水需要の増加も想定し、水質の良好な河川を水源とする上水道施設の整備が不可欠となっていました。この円借款協力事業（下水道施設及び上水道施設の整備に必要な資機材の調達）の実施による、第三者事後評価専門家報告書の中で、“淮河へ流入する水質汚濁物質の排出量の削減、及び安定的かつ安全な水供給の実現であり、



蚌埠市第二污水处理場拡張



懷遠県上水道建設

住民の生活環境の改善」についても、上下水道が整備されたことで住民の生活環境改善に寄与したことが受益者へのグループインタビューを通じて明らかとなった。加えて、改良飲料水源を継続して利用できる人口の割合、及び改良衛生施設を利用できる人口の割合の指標も大幅に改善している。”と記載されました。

今後の環境改善に関する協力については、現在、プラスチック製品の汚染が世界中で注目されています。今回の出張期間中、中里(当時)所長が、地元でプラスチック製品の使用減少を積極的に推進しているポリ乳酸（注）生産会社安徽豊原集团有限公司（蚌埠本社）を訪問し、ポリ乳酸製の衣類、農産物（食器、使い捨てカップなど）、農業用フィルムに関して、優れた点や現状とのギャップ等について意見交換を行いました。

（注：元の石油・化学製品に代わりに原料としてポリ乳酸（PLA）を使用すること。ポリ乳酸（PLA）は、トウモロコシなどの再生可能な植物資源によって提出された澱粉原料から作られた新タイプの生分解性材料。優れた生分解性により、使用后、自然界の微生物により完全に分解され、最終的に環境を汚染することなく二酸化炭素と水を生成する。これは、環境保護に非常に有益であり、環境に優しい材料として認識されている。）

円借款合作事業事後評価報告書（中文）

<https://www.jica.go.jp/china/chinese/activities/finance.html>

張陽

円借款「新疆ウイグル自治区地方都市環境整備事業（Ⅰ）、（Ⅱ）」が 事後評価で A 賞表彰



円借款を利用したハミ市第四浄水場建設

集中熱供給、都市ガス供給が整備されたことで、住民の生活水準と環境改善に寄与したことが受益者へのグループインタビューを通じて確認できました。また、自然環境へのインパクトについても適切なモニタリングと環境対策が実施され、負のインパクトは認められないということ

2020 年 1 月 15 日～18 日まで、JICA 中国事務所が 2017 年度事業評価最終結果 A を受賞した「新疆ウイグル自治区地方都市環境整備事業（Ⅰ）、（Ⅱ）」（借款契約額：168 億円、実施期間：2008-2015 年）に表彰状を授与し、サブサイト（ハミ市）の運営状況などについて確認を行いました。

第三者による事後評価報告書によると、本事業の実施によって、対象 6 都市において、上下水道、集



集中熱供給の整備により現地の生態環境が守られています

でした。同事業の実施により達成された効率性の高い成果は、中国側からも高く評価されています。

今回の出張中に、省エネや CO2 排出の削減において石炭燃料から地熱（天然の蒸気の利用）、バイオマス燃料等で発電する方法やその安全な利用方法、また、農村部における建築技術指導対策などに関する今後の協力等について日中双方で意見交換を行いました。

中文報告書リンク：

https://www.jica.go.jp/china/chinese/activities/c8h0vm0000avsbmj-att/finance_27.pdf

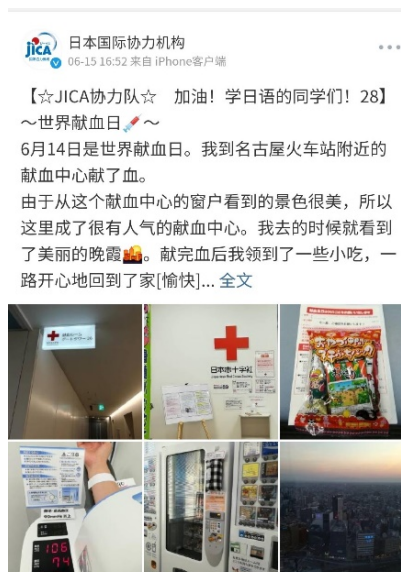
張陽

「加油！学日語的同學」一時帰国中協力隊員が日本語学習者応援記事を発信

新型肺炎の影響を受け、中国派遣中の青年海外協力隊員達は現在日本に避難一時帰国しています。

多くの学校がオンラインでの授業となる中でも一生懸命日本語を勉強し続けている生徒たちのために日本から何かできないかと考えたところ、皆で事務所のウェイボーを使って日本語学習者応援のための記事を執筆することにしました。内容は、家庭料理の作り方、折り紙の折り方、日本各地の伝統行事、日本の季節や文化などです。隊員が見つけた日本を隊員自身が撮影した動画や写真と共に紹介しています。

3 月に執筆を開始してからこれまでに 30 本以上の記事を発信してきました。現在では、日本語学習者だけでなく、事務所のウェイボーを見てください ODA 関心者の皆さんからも好評をいただいています。



jica 日本国際協力機構
04-27 16:32 来自 iPhone 客户端

【☆JICA協力隊☆ 加油! 学日语的同学们! 17】
~舌尖上的日本10 炖大翅鰯鱼~
今天我们来炖大翅鰯鱼 😊
大翅鰯鱼生息在北海道、岩手县、青森县近海,
日语叫“喜知次, 吉次”, 因此这种鱼是在秋田县
部分地区的传统婚礼仪式上不可或缺的吉利食材。
以前有观大翅鰯鱼的大小能猜到结亲两家富裕程度
... 全文



jica 日本国際協力機構
04-08 11:40 来自 iPhone 客户端

【☆JICA協力隊☆ 加油! 学日语的同学们! 9】
~卡通便当~
今天来做卡通便当吧! 简单说就是用米饭和各种
食材摆出漫画的角色或小动物的形象等等, 用这样
的方式做出来的便当非常可爱, 萌萌哒! 😊
有很多人还在互联网上晒出自家制卡通便当, 让这
些创意十足, 灵巧可爱的便当跨越国界, 在国外也
大... 全文



中国事務所 企画調査員 (ボランティア) 中坊容子

互いに見守り助け合い、共に困難を乗り越えよう

—JICA 長期研修員同窓会が日本医療従事者にマスクを寄贈

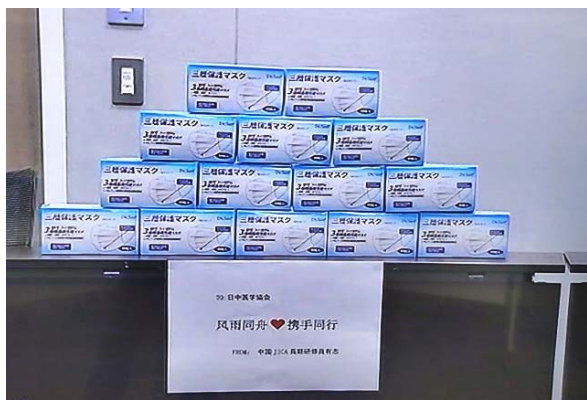
2020 年 5 月 26 日、JICA 長期研修員同窓会（以下同窓会と略称）の有志は公益財団法人日中医学協会の代表と JICA 中国事務所 TV 会議室のスクリーンを通じて面会し、マスク寄贈式が行われました。新型コロナの猛威が続く中で北京と東京をオンラインで結んだ特別な寄贈式となりました。

実はこれは一ヶ月前のできことです。4 月 7 日、新型コロナウイルス感染の急増を受け、日本政府は緊急事態宣言を発出しました。隣国の厳しい状況を目にして、中国各地の JICA 長期研修員は大変不安を感じました。その時、日本国内でマスクなどの防疫資材が不足している状況を知り、同窓会理事会は直ちに会員に呼びかけ義援金を募ってマスクを調達しました。しかし、当時は 98%の日中航路が一時停止状態にあり、物資の輸送は非常に困難な状況に陥っていました。それにもかかわらず、同窓会の皆はあきらめずに力を合わせて困難を乗り越え、ようやく 4 月下旬に 6000 枚のマスクを東京に送ることができました。JICA 本部や中国事務所の協力を得てマスクは公益財団法人日中医学協会を通じて迅速に日本の国立国際医療研究センターや静岡県立がんセンターなど関連医療機関に届けられ、“風雨同舟、携手同行（風雨のさなか同じ舟に乗り、手を取り合って同行する）”のエールも日本へ届けられました。

5 月 26 日の寄贈式で、JICA 長期研修員同窓会の雷鳴理事長はマスクを受け取った日中医学協会の小川秀興理事長に、コロナウイルス感染の最前線で奮闘している日本の医療従事者に敬意を払い、応援する気持ちを表しました。中国での感染拡大が最も深刻な時に、小川理事長が孔鉉祐駐日大使の協力を得て、日中医学協会と順天堂大学の連名の形で武漢へ緊急支援として、大量のマスクや防護服、ゴーグルなどの医療資材の支援が行われたことが紹介され、日中双方の皆さんが大変感動しました。寄贈式では、来場した同窓会の代表 3 人以外に、湖南省にいる雷鳴同窓会理事長や北京同仁病院の医療現場で勤務中の楊秀敏研修員（順天堂大学留学生）も、ビデオ通話で交流に参加しました。今回のような「マスク」で縁を結び、危難の時に互いに励まし合い、支え合う場面は式の参加者に勇気と感動を与えました。



ネットを通じて贈呈式が行われました



日本に贈られたマスク

日中医学協会の小川理事長は同窓会の皆様からの義捐物資に謝辞を述べたとともに、1980 年代に「日中医学協会」の創立にあたって、中国の禅書の中の「断橋水を支えて、無月村に帰る」という名句を引用し、「日本と中国は誠心誠意協力し合い、手を携えて前進すべきだ」という協会の趣旨を紹介しました。マスク交流で JICA 帰国研修員の皆さまと出会い大変素敵なお縁に恵まれたことに感謝し、この日中間の絆を大切にしていきたいと語り、今後も日中が手を携えて前進する時の杖と橋になるよう引き続き努力して前に進みたいと述べられました。

JICA 長期研修員同窓会は JICA ルートを通じて一年以上日本の大学・研究機関で留学し、修士号或いは博士号を取得した帰国研修員で構成された組織です。2007 年に北京で発足した後、日中国民間の相互理解と信頼関係を促進するために日中学術交流や公益活動等様々な活動を実施しており、四川大地震、東日本大震災のときなど、義援金募集などで救援・復興支援活動を行った実績も多くあります。

周妍

青年研修参加者有志から届けられたマスク

「訪日時にお世話になった方に、マスクを送るために募金を集めました。」

2020 年 4 月 3 日、2009 年度の青年研修参加者、現在中国の国家気象局に勤めている王建凱さんからの連絡を受けて、JICA 事務所でお手伝いをさせていただきました。

まず、当時の訪日受け入れ団体であった、福井県日中友好協会へご連絡しました。電話を受けた友好協会の方は、当時のことをよく記憶されておられ、受け入れを引き受けてくださいました。

輸送手段が制約され、マスクの輸出規制が始まる中、輸送には相当時間がかかりました。北京の通関を抜け、日本へ直行かとおもいきや、香港経由で名古屋へ、そして福井県へ。十日間以上を経て、マスクは無事に到着しました。福井県日中友好協会からは、当時のホームステイ先にマスクを配布していただき、思わぬ中国からの贈り物にとっても喜んでいただけた、というお礼をいただきました。10 数年の時を超えて、災害の機会に助け合う、素晴らしい隣国関係の 1 シーンだと感じました。



研修員から送られたマスク。箱にメッセージが書かれています

糟谷良久

中国計画生育協会が高知県へマスクなどを寄贈

新型コロナウイルスの日本での拡大が心配された 3 月下旬から 4 月にかけて、おさまりをみせる中国では海外への支援活動が活発に行われていました。このような状況の中、中国計画生育協会から、日本に救援物資を送りたいが、どうしたらいいかと相談を受けました。実は、中



高知県に届けられた救援物資

国計画生育協会は 1990 年代から日本の民間団体と協力し、農村地域の母子保健事業に取り組んできた経緯もあり、また国際機関である IPPF(国際家族計画連盟)の加盟協会という立場を通じた交流を日本と続けてきたようです。このような関係もあり、日本への支援を積極的に進めてくれまし

た。そして、これまで中国における公衆衛生事業の推進や訪日研修員の受入れ等で大変お世話になっている高知県に対し支援を行うことになりました。救援物資として、マスクや防護服、体温計などが寄贈され、高知県の関係者の皆さんも大変感謝しておりました。

互いに苦しい状況の時にできることを行い協力し合う、今後も日中のこのような関係が続くことを願っています。

内山智尋

【本の紹介】 現地取材！世界の暮らし③中国

日本では中国について、ニュース記事や歴史、自然といった色々な面でテレビなどを通じ紹介がされていますが、現在の生活に密着したものは少ないように思います。

この本では、私たちが住む今の中国の暮らしを、庶民の視点から紹介したものです。

家の中の様子、シェアバイク、ショッピングモール、遊び、学校生活の様子・・・街で見かける身近な話題を、豊富な写真で丁寧に紹介しています。中国で暮らしている私たちが見ると、思わず「そうそう、そうなんだよ！」と言いたくなる内容です。

「深まる日本と中国の関係」という章では、ODA の紹介も写真付きでされています。

小学校高学年～中学生向きとされている本ですが、大人が読んでも楽しめる内容だと思いますので、中国に来たことがある方も無い方も、ぜひ手に取ってご覧ください。

【現地取材！世界の暮らし③中国】文・写真：吉田忠正、監修：藤野 彰、ポプラ社



糟谷良久